

報りハギャー

七夕に願いをこめて of ケアマネ

☆ みんな元気に 楽しく過ごせますように ☆

好きな人と 毎日 会えますように。 Y・K

自分と家族とスタッフとご利用者様 みんなが笑顔ですこせすように。 ⑧

皆の夢が 叶いますように。 S.S

A5 ランクのお肉が 食べられますように。 S.S

鳥羽水族館のラッコの Xイちゃんに会えますように。 K.Y

「毎日 が楽しく笑顔で 過ごせますように!!」 A.E

健康に 過ごせますように

ミソが 上達しますように。 ⑧

3度ののびのびと 起こすように。 Y・I

パリオリンピックで日本人選手 が大活躍しますように!! A.K

相手の利用者様を空想した体罰で罰せ ますように。 秋元直乙

いつも感謝の気持ちを 忘れずにいれますように。 有賀裕生

☆ 毎日の生活が健康を維持できるように。 ナニシタマアを介護を継続する 有賀裕生

利用者の皆様とご家族様 が幸せになりますように。 A.Y

健康でやりたい事ができますように。 R.E

センター長の ゼクワリ勝が 早く治りますように!! ⑧

愛犬が元気で 長生きしてくれますように!! ⑧

数字に強くなれますように ⑧

北海道と沖縄に 旅行に行きたい!! ⑧

よく歩き よく食べて 元気に過ごしたい☆ ⑧

税金が 下がってみんな ミニミニに。 K.T

百ちゃんの手術が 上手くいきますように。 M.Y

元気で いられますように

愛猫が長生きしますように!! ⑧

いつまでも丈夫な胃腸で!! ⑧

イギリスに行けますように!! ⑧

仕事も大切休みも大切 ⑧

きれいなグレイヘアに なりたい!! ⑧

西部総合病院 訪問リハビリ
～みんなで造る・地域を繋ぐ広報誌～

報りハギャー

vol.20
2024年夏号



第10回 地域包括ケア病棟研究大会に参加しました

2024年7月6日に日本教育会館で開催された、第10回地域包括ケア病棟研究大会に参加してきました。「地域包括ケア未来構想」～人生100年時代に向けて～というテーマについて、地域で働く訪問リハビリスタッフとして、地域包括ケア病棟が未来に向けてできること、担うべき役割について学んできました。訪問リハビリからは「地域包括ケア病棟と訪問リハビリテーションの関わり方の調査」というテーマで発表を行いました。



健康寿命を延ばそう!! 介護予防シリーズ 第6回 認知症の予防について学ぼう

現在認知症の確実な予防方法は見つかっていませんが、生活習慣や不活発な生活が発症に深く関わっていると言われていています。日ごろの生活を見直すことで、認知症の予防に取り組みましょう。

認知症の発症リスクを高くするものは

- 糖尿病
- 少食による低栄養
- 脂質異常
- 偏った食生活
- 高血圧
- 運動不足
- 肥満
- 閉じこもり
- 運動機能の低下
- 環境の変化 など



さいたま市認知症ガイドブックを参考にしてみましょう。
<https://www.city.saitama.lg.jp/002/003/003/002/005/p041232.html>
 次号では、認知症の発症予防・進行予防（食事）について解説していきます。



NEWS! 介護報酬（訪問リハビリ料金）改定のお知らせ

2000年に始まった介護保険制度ですが、3年に一度介護報酬を改正することになっています。今年2024年にも介護報酬改定が行われ、その変更が6月から適用されています。そこで今回は、当院訪問リハビリテーションをご利用頂く際の、料金や加算の変更点をご説明いたします。

【改定内容】

項目	変更前	変更後
基本報酬 20分	307単位	介護：308単位 予防：298単位
体制加算 20分	6単位	6単位
マネジメント加算 1か月1回	B（イ） 450単位 予防の方はなし	イ 450単位 （180単位＋ 医師の計画書説明 270単位） 予防の方はなし

※変更後も変更前同様に、3か月に1度、当院医師とのリハビリ会議を実施し、目標設定を行いながら、目標達成・卒業を目指し自立支援を行います。

【ご利用料金（要介護の方）】

	サービス内容	自己負担料金（1割）
リハビリテーション費	40分（20分×2回）	667円
	60分（20分×3回）	1,000円
サービス提供体制強化加算	（20分につき）	6円
マネジメント加算 B（イ）	要介護者（1か月に1回）	487円

<例> 週1回60分で1か月ご利用（要介護、1割負担）
 $(1,000円 + 19円) \times 4回 + 487円（マネジメント加算） = 4,563円$

※さいたま市は地域区分3級地区に該当するため、1単位あたり10.83円となります。
 ※今後、科学的介護情報システム（LIFE）の導入による加算の変更も検討しています。



利用者さんコラム

コミュニケーション障害 リハビリ体験⑤

（報リハ14,15,16,19号：再スタート リハビリ体験①～④の続き）

私は教員だった。大学の教壇に30年以上立ち続けてきた者としてその責任は承知しており、やむなく定年まで6年を残して退職を決意した。すると、気が楽になって声を失った後のことはあまり心配しなくなった。ホワイトボード、ミニタブレット、そして地元の病院の訪問リハビリから派遣されて懇意になった理学療法士の方が作ってくれた「文字盤」を用意していた。文字盤とは、ひらがな50音に数字、記号を印刷したA4のラミネート加工したシートで、手術後を想定し家族を相手に時々言葉のやり取りをして安心していた。



誤算は、手の震えがひどくなったことだ。私の手は時として激しく揺れて、A4の枠内にとどめておくことさえ思うにまかせず、1センテンスの文字をすべて正確に指し示すことなど至難の業に近かった。転院後は療法士をはじめ医師や看護師に説明することが多くなり、それにともない訓練時間の浪費やスタッフをいらだたせることも頻繁になっていった。見かねた医師が作業療法士に相談したのは、転院後一週間ほどたってからのことだった。懸案は瞬時に解決した。

私の担当の作業療法士さんは、フィンガーボードとトーキングエイドという二つの会話支援ツールを紹介してくれた。フィンガーボードとは市販されている文字盤の一つ。フィンガーボードの電子版ともいえるのがトーキングエイドで、タブレットのiPadのアプリ。いずれも手の震えに悩まされている私のようなユーザーにとって、ありがたい会話支援ツールである。こうした商品はその背後に多くのユーザーの存在を感じさせ、まことに心強い。それまでの“会話”をめぐる軋轢は何だったのかと思う。



感激した私は早速アマゾンでフィンガーボードを取り寄せ、活用し始めた。

トーキングエイドもすぐにほしかったが、自治体の助成が利用できそうだから少し待てといわれた。結局入院中には間に合わなかったが、退院後まもなく異例の速さで認可された。ひとえにケースワーカーさんの働きが大であったことによる。今では起床から就寝まで手元に置かねばならない必需品となっている。

一時は険悪な関係にあった看護師さんも、「もっと早く知っていればよかったですね。」と満面の笑みを浮かべて喜んでくれた。そうだね、と私も笑顔で応じた……「もっと早く知っていれば」？「もっと早く知って」……いたんだ！

そのとき1年前の記憶がまざまざとよみがえった。同じ場所で同じ人に同じことを二度説明されていたのである。退院後、トーキングエイドに関してはさらに2年前に地元の病院の訪問リハビリの言語療法士の方が、パンフレットを届けてくださっていたという事実が判明した。何とも不甲斐ない。他人事のように聞いていて、本気でリハビリに向き合っていたためだろう。反省。